

国立大学法人名古屋工業大学

「技術の市場化を実現する産学連携教育」～産学共通プラットフォームでの双方向インターンシップ～

【取組概要】産学連携共通プラットフォームを構築し、技術シーズの共有化、行きっぱなしでない双方向のインターンシップを実施することにより、**技術の市場化**に貢献できる**高度な実践型専門技術者**を育成する。本学独自の充実した事前事後教育(知的財産教育、フォローアップほか)及び実践型技術獲得の為の企業現場研修を国内・海外企業を含め実施。

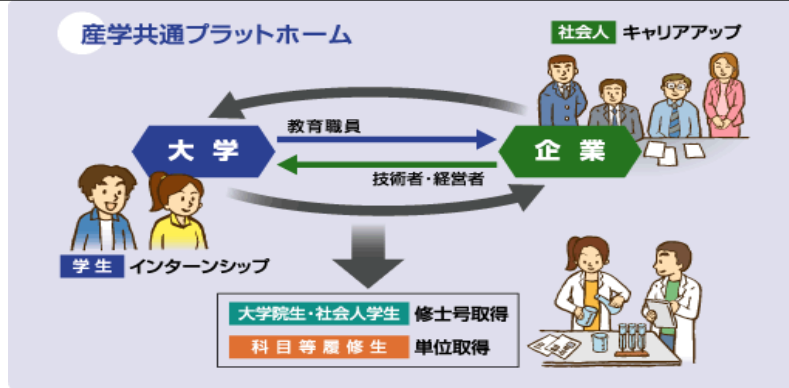


図1 産学双方向インターンシップの構成

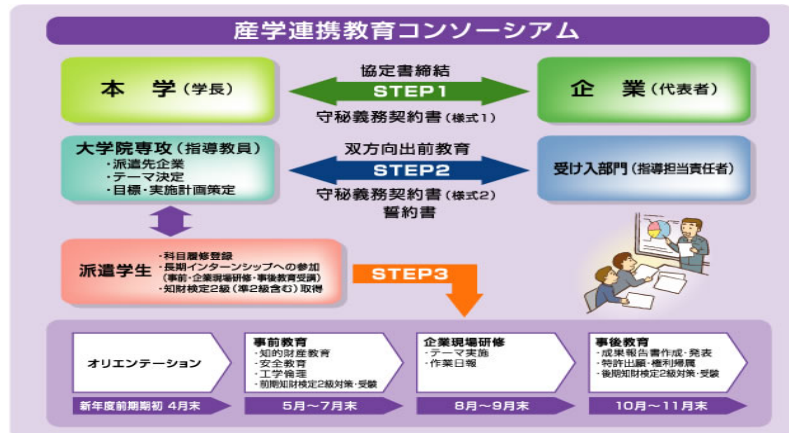


図7 長期インターンシップ実施プロセスと教育スケジュール
(インターンシップ期間: 3ヶ月以上、内訳: 事前授業1ヶ月(30時間)、企業研修2ヶ月程度、事後教育1ヶ月)(30時間)

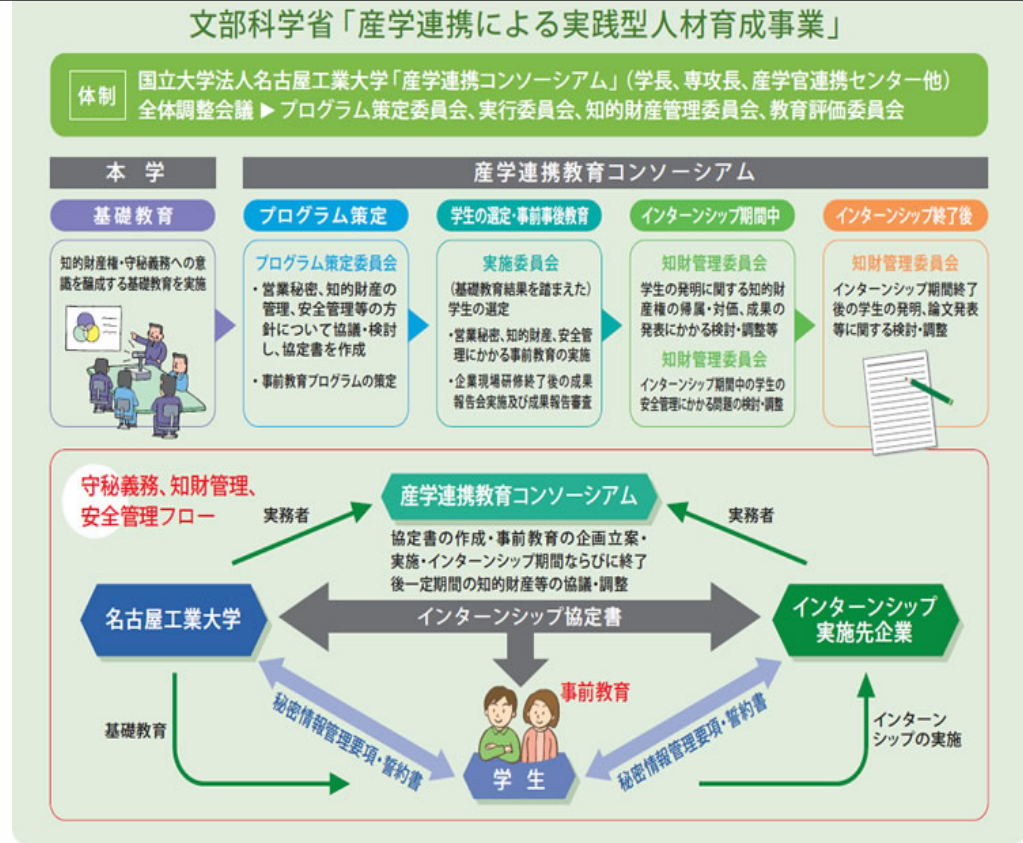


図4 産学連携教育コンソーシアムと長期インターンシップに関する鳥瞰図

【成果】**五カ年実績(平成17年度～平成21年度)**:派遣学生総数 56名。受入企業・機関総数50、知的財産管理技能検定2級技能士資格15名、3級技能士資格54名。海外研修総数8名。産業戦略工学専攻が先導的役割を担い、本教育システムを本学他専攻大学院に展開・導入。**平成22年度**:五カ年成果をベースに、全学的取組を実施。派遣学生37名、受入企業・機関34、知的財産管理技能検定3級技能士資格29名。産業戦略工学専攻のほか、創成シミュレーション、情報工学、機能工学等において、独自教育プログラムを実施(文科省「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実」予算充当)。全学的組織・体制構築進行中。

産学連携による実践型人材育成事業 ―長期インターンシップ・プログラム開発― 最終評価結果

大 学 名	名古屋工業大学
教育プロジェクト名称	「技術の市場化を実現する産学連携教育」 ― 産学共通プラットフォームでの双方向インターンシップ ―
事業責任者	大学院工学研究科 教授 中村 隆

事業概要

産学連携共通プラットフォームを構築し、技術シーズの共有化、行きっぱなしでない双方向のインターンシップを実施することにより、技術の市場化に貢献できる高度な実践型専門技術者を育成する。本学独自の充実した事前事後教育(知的財産教育、フォローアップほか)及び実践型技術獲得の為に企業現場研修を国外・海外企業を含め実施。

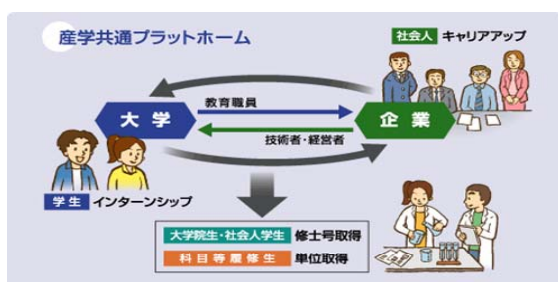


図1 産学双方向インターンシップの構成



図2 長期インターンシップ実施プロセスと教育スケジュール
(インターンシップ期間: 3ヵ月以上、内訳:事前教育1ヵ月(30時間)、企業研修2ヵ月程度、事後教育1ヵ月(30時間))

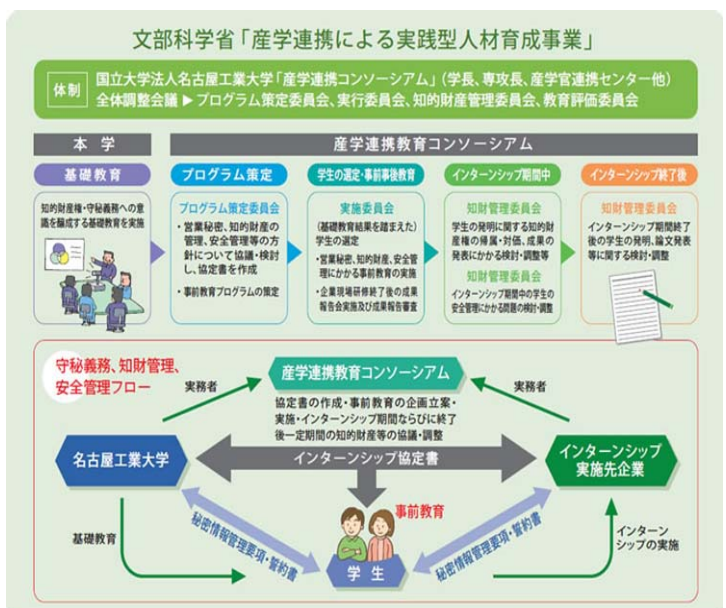


図4 産学連携教育コンソーシアムと長期インターンシップに関する鳥瞰図

最終評価結果

(総合評価) A: 所期の計画と同等の取組が行われた

コメント

《優れた点》

- 育成人材像がかなり明確である。産業戦略工学専攻を中心に、協定型、公募型の二つの形態により、院生、企業ともに参加し易い状況を設定し実行したこと、また、事前教育、事後教育の履修の中で「知的財産検定2級」の資格取得を義務づける等、バックグラウンド対策も良かった。
- 事業の継続を決定し、さらに推進していることも評価できる。

《改善を要する点》

- 当初は全専攻を対象として行うとしていたが、結果的には産業戦略工学専攻のみに終始し、横展開ができなかった。他専攻の理解が得られなかったものと思われるが、残念な結果である。
- これだけ優れた内容のプロジェクトを展開したのであるからこそ、学内での拡大、浸透に注力して欲しい。